

ラオス伝統の薬草を健康食品に

日本の加工技術に移転

国際協力機構(JICA)は1月13日、滋賀県甲賀市のツジコー株式会社(代表取締役 辻 昭久)と「固有植物の高付加価値化に向けた加工技術に関する普及・実証事業」の委託契約を締結しました。

生物多様性に恵まれたラオスでは、薬効成分を持つ固有植物を利用した伝統医療が盛んです。しかし、ラオス固有の植物が健康食品の原料になるという認識が浸透しておらず、食品加工技術・品質管理技術レベルも十分ではないため、海外市場への展開に至っていない状況です。ラオス政府の政策では、自給型農業から市場型農業への転換や輸出市場で競争するための農作物加工能力向上を図ることなどが挙げられています。

ツジコー株式会社は、同社の低温乾燥・粉末化・非加熱技術により現地の固有植物を健康食品原料に活用することを目指し、今回の実証事業を行います。本事業では、ラオスの保健省、国営健康食品生産会社、日本の大学等と協力し、同社のノウハウによる薬効植物加工や品質管理に関する研修、バリューチェーンの検討、固有植物の試験的な有機栽培等を行う予定です。



ツジコー株式会社の技術で、ラオスの伝統植物が高付加価値化され日本品質の健康食品原料として活用され、更には有機栽培による生物多様性保存への将来的な貢献が期待されています。

※この取り組みは、我が国の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、現地での適合性を高め、普及を図ることを目的とした「普及・実証事業」として実施されるものです。2015年9月に公示を行い、本事業が採択となりました。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 業務第一課 小西 陽子

TEL 078-261-0397 e-mail: Konishi.Yoko.2@jica.go.jp